

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

Vol. **67**

2016 SUMMER

地域とつながり 攻めの捜査で海を守る

特集

第五管区海上保安本部

徳島海上保安部 美波分室



かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **67**
2016 SUMMER

PHOTO GRAVURE

- 1 内閣総理大臣初！ 海上保安学校卒業式にご出席
- 1 尖閣領海警備専従体制が完成 ～新造大型巡視船10隻の配属～
- 2 平成28年熊本地震に対する 海上保安庁の対応について
- 2 伊勢志摩サミット警備終了！
- 3 海上交通安全法等の一部を改正する法律の公布
～東京湾における海上交通管制の一元化～
- 3 女性職員の活躍推進
- 3 世界初！南海トラフ想定震源域のひずみ分布解明
～科学誌「Nature」電子版に掲載～

[特集]

- 第五管区海上保安本部
- 4 徳島海上保安部 美波分室

地域とつながり 攻めの捜査で海を守る

TOPICS

- 10 **美波 エトセトラ** ～特集では伝えきれなかった美波をここで～
- 12 **NEWSFLASH** ニュースフラッシュ

裏表紙

INFORMATION

大切な命！自分で守る **自己救命策確保3つの基本**
海上保安大学校・海上保安学校採用試験(教育訓練管理官)

内閣総理大臣初！ 海上保安学校卒業式にご出席



3月19日、海上保安学校（舞鶴市）において、安倍内閣総理大臣と石井国土交通大臣のご出席のもと、卒業式が執り行われました。

内閣総理大臣の海上保安学校卒業式へのご出席は本校設置以来初であり、祝辞の中で、新任海上保安官として全国各地へ赴任し、これから最前線において現場を支える力となる卒業生243名（内、女性22名）を激励しました。

また、海上保安の日（5月12日）にあわせ、安倍内閣総理大臣の祝辞が、領土・領海を守る海上保安官の映像とともに公開されました。



尖閣領海警備専従体制が完成 新造大型巡視船10隻の配属



（米田堅持撮影）

4月16日、石垣海上保安部において、尖閣領海警備専従体制完成披露式を挙行了しました。

今年2月24日に巡視船「あぐに」、「いぜな」が就役し、大型巡視船14隻相当による尖閣領海警備専従体制が確立しました。石垣海上保安部に新造の大型巡視船10隻全てが配属され、3月末には専用棧橋や船艇用品庫の整備が完了したことから、今回の式典を開催したものです。

式典では、沖縄県知事（代理）、八重山地方の自治体の長のほか、多数の来賓にご参列頂き、宮



崎一巳石垣海上保安部長は「国家の最重要ミッションに従事しているという誇りを持って、その使命を全うしてくれるものと確信している。」と式辞を述べました。



平成28年熊本地震に対する 海上保安庁の対応について



海上保安庁では、4月14日の地震発生以降、政府の一員として、当庁の機動力を生かし、緊急医療支援やいわゆる「プッシュ型」の住民支援を実施してきました。

緊急医療支援としては、熊本県の要請に基づき、19名の患者や医療関係者の緊急搬送を実施しました。また、住民支援として、熊本港、三角港、八代港において、巡視船により約190トンの給水や6,323名に対する入浴提供等を実施しました。

SNSなどを活用して、こうした活動を積極的に情報提供しました。



伊勢志摩サミット警備終了！



海上保安庁では、昨今の厳しいテロ情勢を踏まえ、伊勢志摩サミットを無事に成功させることを最大の目的に、全国から巡視船艇を派遣し、最大約100隻の警備体制により海上警備を行い、近年

では最大規模の警備勢力を投入した警備体制を構築した結果、5月28日、全日程を無事成功させることができました。



Photo Gravure
5

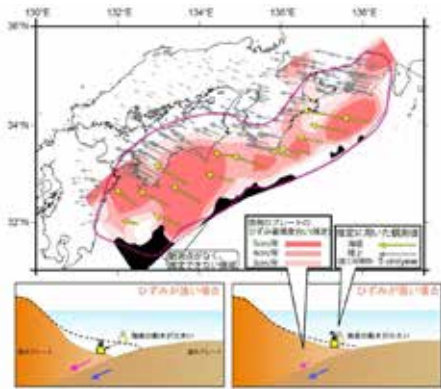
海上交通安全法等の一部を改正する法律の公布
東京湾における海上交通管制の一元化

5月12日、海上交通安全法等の一部を改正する法律案が可決・成立し、5月18日に公布されました。

この法律は、津波等の非常災害が発生した場合における船舶交通の危険を防止するため、指定海域等にある船舶に対して海上保安庁長官が移動等を命じることができることなどを内容とするものです。

このため、海上保安庁では、まずは東京湾において平成29年度中の運用開始を目指し、一元的な海上交通管制の構築のためレーダー等の設備を整備することとしています。

一元化後の新たな海上交通センターは、湾内の船舶交通を一元的に把握し、非常災害時に大型船舶等を湾内から湾外まで速やかに退避させるなどの、新たな業務に取り組むこととなります。



海上保安庁では、南海トラフの海底に設置した15箇所の観測点で平成18年度から27年度にかけて取得した海底の地殻変動の実測データを用いて分析を行いました。その結果、南海トラフ巨大地震の想定震源域におけるひずみの分布（陸のプレートの下面の動き※図参照）が初めて明らかになりました。

本研究成果は5月24日に英国の科学雑誌「Nature」の電子版に掲載されました。

Photo Gravure
7

世界初！南海トラフ想定震源域のひずみ分布解明
科学誌「Nature」電子版に掲載



Photo Gravure
6

女性職員の活躍推進

海上保安庁では、昭和54年に初めて女子学生を採用して以来、能力・適性・希望に応じ、適材適所の配置を進めており、現場の最前線で活躍する女性職員も増えています。平成26年度には、女性のさらなる活躍推進のため、海上保安庁次長を本部長とする「海上保安庁女性職員活躍・ワークライフバランス推進本部」を設置し、女性職員が働き続けられる職場、活躍していける職場を目指し、更なる取組みを進めています。

4月人事では、女性活躍推進のための各種施策を推進する立場として人事課人事企画調整官（蓮見由絵官）が、当庁の施策を広く国民の皆さまにPRする立場として政策評価広報室課長補佐（灘波陽子官）が就任し、女性目線で女性職員の活躍推進をリードする役割に期待されています。

地域とつながり 攻めの捜査で海を守る

四国の東南部、太平洋に面した徳島の海
穏やかな地で研鑽を積む
徳島海上保安部美波分室の日々を追う
取材・文／中島 敦（オンサイト）



美波分室が入る合同庁舎前にて。

第五管区海上保安本部

徳島海上保安部 美波分室



録本哲二分室長。「船長・機関長は兄弟、20代の職員は息子みたいなもの。まずは職員の健康と安全を守ることがモットーです」





背後に日和佐城を望む巡視艇「あしび」の基地。庁舎から至近。

四国の東南部、太平洋に面して伸びる徳島県南部海岸のほぼ中央に位置する日和佐港は、古くから県南部の漁業基地として栄えてきた。第五管区徳島海上保安部美波分室は、昭和37年に小松島海上保安部日和佐分室として発足し、平成19年に徳島海上保安部美波分室と改称され現在に至る。鎌本哲二分室長をはじめとす

る分室員及び巡視艇「あしび」で、東は蒲生田岬から西は高知県境となる竹ヶ島までの海岸線約50キロメートル、沖合約20キロメートルまでの指定水域内で業務に従事する。

管内には14の漁港があり、そのうち5港が港則法の適用港となっているが特定港はなく、入出港する船舶は最大500総トン以下に限られる。外国船や国内の貨物船、タンカー等の出入港もない静かなエリアとなっている。

この地域の特徴について鎌本分室長は「徳島の県南部には臨海企業などがないので、せいぜいガット船と呼ばれる砂利採取運搬船が入港するぐらいのどかな地域」と説明する。「最近では京阪神地域からのマリレジャーや釣り客も増加しており、特に穴喰町は日本有数のサーフインのメッカとなっていますが、主な産業は漁業です。」とも。おのずと業務は地域密着型となり、「地域住民のニーズに応える取締り」を念頭に、取締り依頼や苦情等には必ず応えるという方針で日々の業務を遂行している。

巡視艇の存在を知らしめ 地域との連携を深める

美波分室に配備される「あしび」は20メートル型巡視艇で、これを2クルー制で運用する。鉄尾浩樹船長は初任時にヘリコプター搭載型大型巡視艇に乗船して以降は小型巡視艇を乗り継いでおり、陸上勤務も含めて刑事・捜査畑を歴任してきた。

「指定水域内は小規模な漁港が多く、漁業者や釣り人は多いが船舶の交通量は少ない海域です。また、大規模な海難事故はめったになく、私がここに赴任してから船舶による衝突事故、海難事故は発生していません。」と言う。

台風など悪天候の時を除けば、北西側に四国山脈が連なるこの地域は冬の偏西風を受けることもなく、比較的穏やかな海域である。とはいえ、太平洋に面しており、ひとたび港の外に出れば、小さなC/L巡視艇の船体を通じて力感を湛えたうねりを感じるようになる。

鉄尾船長がしう戒で心がけているのは、地域の人々に海上保安官の存在を伝えることだという。必ず小さな港にも立ち寄って漁業者の方に声をかけ、コミュニケーションを重ねていくのだ。

「沖ばかりを航行しても釣り人や漁船の人にはか姿を見てもらえないでしょう。小さな港にも入って行って私達の姿を見てもらい、存在を感じてもらいたい。安心感を持ってもらうということはもちろんですが、コミュニケーションを繰り返すことで取締りの依頼や通報など、地元の方からの声が入ってくるようになります。そういった要請に全力で応える。地域に役立つ活動することを常に念頭においています。」

この辺りの漁場はアワビヤトコブシ、イセエビ、ウニなどに恵まれており、これらを狙って他地域からも密漁者が入ってくる。そういった情報は漁業者から寄せられることも多いが、寄せられた情報



無人島や奇岩、機場の続く沿岸部を哨戒する巡視艇「あしび」。トライアスロンなどの大会や海で行われる「姫神祭」では海上警戒を実施。

にしつかりと対応することが、また次の情報へと繋がっていく。この繰り返しが地域との連携を深め、治安と安全の確保に繋がっていく。

美波分室が扱った大きな事案としては、昨年11月の潜水器密漁事件が挙げられる。乱獲を防ぐため潜水器の使用が禁止されているアワビ漁で、空気ボンベを使っていた違法漁業者を検挙した事件だ。空気ボンベを使っていることを悟られないように巧妙に細工しての犯行だったが、取締り要請を受けて内偵を進め手口を判定し逮捕に至った。数カ月間に及んだ捜査は若手職員も含め、それぞれの職員にとって大きな経験となる事案でもあった。

懸案される地震津波対策

一方、災害に対する対応も重要な案件のひとつ。とりわけ地震については南海トラフ巨大地震の発生が警戒されている地域であり、地震と津波への対策は重要課題だ。美波町での津波高さは港口付近で最大9・8メートルに及び、美波分室

庁舎屋上に設置された非常用電源は最大70時間稼働。ソーラーパネルも備え、非常用食料も備蓄し、最大160名の避難者を収容する。非常用のヘルメットとライフジャケットは非常階段への出口手前に配備。



が入る日和佐地方合同庁舎周辺も3・5メートルの浸水域とされている。地震発生後、約10分で20センチメートル以上の海面変動（第一波）が、約28分後には最大9・8メートルの津波襲来が予想されているのだ。

3階建ての庁舎は平成26年9月に津波避難ビルに指定されており、最大160名の避難者を収容するキャパシティを持つ。屋上には連続70時間稼働する非常用発電機とソーラーパネルを備えており、非常用食料も備蓄する。また外部からすぐに屋上へ上がるようにと外階段も設置された。日頃から徳島県南部総合県民局との相互防災通信訓練をはじめ、避難者誘導や要介護者搬送訓練、ゴムボート操船訓練などを実施している。

「それでも——」と鎌本分室長は言葉を繋ぐ。「この地域は高齢者や独居の方が多いのですが、いざというときに訓練のように整然と避難できるかが鍵になります。実際にこの庁舎に大勢の高齢者が辿り着いたとき、限られた時間内に、狭い階段で皆さんを上まで抱えあげられるかは懸案事項です」

地域柄、地震津波に対する意識は高く、それは県民局に設けられた「津波減災部」という部局名にも表れている。「被害をなくす」のではなく「被害をどれだけ減らせるか」という視点が伺える一例だ。地震は突然発生するもの。鎌本分室長自身、いつでも退避できるように枕元には常に災害時のリュックサックを置いてあるという。

能動的に動く意識作り

比較的に事案の発生件数が多いほうではない美波分室。若手職員の育成においては、経験できる事案が少ないのはデメリットとならないだろうか。現場で直接若手職員の育成に取り組んでいる鉄尾船長

も「実践がいちばん有効な教育なのはずうまでもない」と口にする。ただ、必ずしも事案の数＝実践の数というわけではないようだ。

往々にして事案の多い部署では、「発生した事案に対応する」という動きになりがちだが、美波分室では「攻めの捜査」を強く意識し、「露見していない事案を探り出し解決する。」ことに取り組んでいる。事件の発生や通報を待つのではない。



小学生の非常階段避難訓練や安全講習会、うみがめが上陸する大浜海岸の清掃イベントなど、地域とつながり、イベントにも積極的に参加する。

く、情報が入りやすい環境を作り、さらには情報を取りに行く。事案が少ないからこそ能動的に動く意識と行動力が求められるのだという。

また規模の小さい部署の利点として「ひとりひとりが幅広い業務に携わることができる」と鎌本分室長は指摘する。「マッパワーに勝るものはありませんが、小さいところは小さいなりに個人の責任が大きくなります。職務内容も広がりますし、事案があれば最初から最後まで我々で完結するんだという信念を持つ。全員がそういう自覚を持ってやっているのでレベルは高いと思います。ここでの経験を生かして次の部署で活躍してもらいたい。苦勞している連中ですが、それだけに自信を持って送り出せます」と言葉を結んだ。



美波町の海を守る

MESSAGE
from
MINAMI

海上保安官

船長からのメッセージ

若手が自ら
積極的に動きやすい
そんな雰囲気作りを
心掛けています



自分から前出る姿勢で!

巡視艇「あしび」航海士補 三木 将一郎 (24歳)

「映画の『海猿』を見て海上保安官という仕事を知りました。尖閣諸島のニュースも影響したと思いますが、最初は領海警備に従事したいと思っていました。ただ、海上保安学校に入学し刑法などを勉強していくうちに刑事業務に興味が湧いてきて、刑事事案を多く扱う小さい船の勤務を希望しました。

美波分室は小規模な部署ですが、その分、他の新卒者では経験できないことを経験させてもらっていると思いますし、取締りなど、思っていたとおりやりがいのある仕事です。漁業者と直接話すことで地域との繋がりができ、それがこれからの仕事の糧となるのがたくさんあります。毎日、新しい経験があります。

とはいえ取調べの現場では反感を買うこともあります。漁業者から「なんで来た?」とか「こんなことで捕まえるのか?」と言われることも。僕たちは救命胴衣ひとつにしても、安全に漁をしてもらいたいのと言い続けているわけですし、事故が起こってからでは遅い。これからも安全第一であることを伝えていきたいですね。

僕はもともと人見知りでしたが、この仕事は人見知りではダメ! 自分から進んで考え、動き、人と接するようになって、自分自身も少しは進歩できたかなと思っています」





大型船で船乗りとしての経験を重ねたい

巡視艇「あしび」航海士補 葛城 拓末 (25歳)

「高校3年の時、海上保安大学校を受ける予定だったのですが腸炎にかかって受験できず、その時は大学に進学しました。大学ではヨット部に所属し、バリバリの体育会系でヨットレース漬けの4年間を過ごしていたのですが、海上保安庁に入る最後のチャンスだと考え、最終的に大学を中退してこの仕事に就きました。

せっかく小型巡視艇に乗ることができたので、今は与えられたことをしっかりこなしながら捜査関係の技術を身につけていこうと思っています。でも将来的には特修科に進むことを考えています。大型船の主任航海士になり、船乗りとして経験を積みたい。特修科を修了し現場へ出ると、幹部として全国転勤になりますが、日本なんだからどこに行ってもある程度は便利だし飛行機もあるでしょう。だいたい今だって、そう頻繁に帰省しているわけじゃありませんし。

今の職場は、僕らが自発的にやりたいということを知ってくれます。「取締りに行きたいのですが」と言うと『よし、行ってこい』と。後手後手に回らず自分から仕事を作ろうという気持ちは、ここだから経験できることだと思いますし、この気持ちがあればどこに行っても変わらないで仕事に取り組めると思っています。仕事で気を使っているのは健康管理です。疲れるときは疲れますが、誰かひとりが疲れて暗い顔をしていたら職場の雰囲気も変わってしまうので、とにかく明るく元気に。それしか取柄がないと思っています」

ひとつのチームだからこそその達成感

巡視艇「あしび」機関士補 中尾 僚太 (24歳)

「ここに来る前の2年半は高知海上保安部の小型巡視艇に乗っていました。この時は乗船期間が長くなることもありましたが、今は船が小さいので日帰りで、取締りや書類作成にも関わるようになりました。

去年、密漁の情報が入った時は何か月も内偵し、強制捜査で被疑者を捕まえました。美波に来てからいちばん大きな仕事でしたし、非常にいい経験ができました。保安部など大きな部署とは違い、分室は職員が少ないので、一人ひとりの役割が大きく、責任のある仕事も任せられます。最前線で内偵や情報収集を手掛けたときは、今自分は事件に関わっているんだという意味でモチベーションが上がりました。

大きい船と小さい船、どちらも好きですが、ここではひとつのチームで何かを達成するという感じが味わえるのは確かです。狭い地域なので僕らのこともすぐに住人に知れ渡りますし、逆にこちらに入ってくる声に耳を傾けながら、地域が求めていることに応えていきたいと思っています」



穏やかな地域で自ら学び技術を磨く

巡視艇「あしび」航海士補 片岡 雄太 (26歳)

「前任地は高知海上保安部の小型巡視艇に4年半乗っていたので、小型巡視艇での経験は長いと思います。日々の哨戒から事案対応、安全指導など業務は同じですが、地元特有の潜在事犯摘発に向けて、空いている時間を見つけて勉強したり、皆でいろいろ考えながら切磋琢磨しています。六法全書で法律を勉強したり過去の事案を調べたり。それを後輩に教えることもありますし、操船技術を磨くこともあります。前の船では現場で学ぶことができたのですが、ここは現場での事案が少ないですから、その分、自分がかかる範囲ですが後輩に伝えるようにしています。

違反者を捕まえる時にしろ、人を助けにいく時にしろ、日々の哨戒中にしろ、海上保安官の仕事は人と関わる業務です。その点では自分に合っていると思いますし、漁師さん達にもこちらから積極的に声をかけるようにしています。「何しに来た？」って言われることもあります。そんな時もスムーズに場を収めて肅々と業務に取り組んでいます。元々、野球をやっていたので地元のチームにも参加しています。今朝も14対5で勝って来ました！」



操船はチームプレー。だから雰囲気作りを大切に

巡視艇「あしび」航海士補 阪口 潤 (25歳)

「去年から、船長が非番の時は自分が臨時船長を任せられるようになりました。だいたい機関長と組むのですが、夜間も含め、24時間いつでも出港できるようにしてなければならぬし、多少時化している時でも出なくてはいけない。もちろん事故なんて起こすわけにはいきませんが、船長にできることは自分もできなくてはならないので大変です。今は船長に追いつくのに必死です。

うちの船長はあまりうるさいことを言いません。ある程度は若い者に任せて見守ってくれている。誰だって頭ごなしに言われるとやりにくい反発するでしょう？ 船を動かすのはチームプレーですから、自分が臨時船長を務めるときも、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけています。

この仕事について、やっと最近やりがいを感じるようになりました。まだ自分はそれほど責任を負っているわけではありませんが、やはり地域との関わりが大切だと思います。地域の人からの声を聞き、その要望に応えることができるというのが醍醐味だと感じています」





美波 エトセトラ

特集では伝えきれなかった美波をここで

写真提供：美波町、「四国の右下・魅力倍増」推進会議



ボランティアガイドさんにお任せ！

うみがめの産卵、薬王寺、日和佐城と見どころ満載！そんな日和佐観光を支えるボランティアガイドの皆さん



美波町日和佐地区の大浜海岸はうみがめの産卵地として国の天然記念物に指定されています。この浜で産卵するのは「あかうみがめ」で、バラつきはありますが年間30頭前後が上陸。産卵期は5月下旬から8月。この時期、夜間は海岸沿いの道路は車両通行止めとなり、監視員が常駐してうみがめを守っています。うみがめの上陸を知らせるメールサービスもあり、産卵中は観察もできます。



街中 亀だらけ！



KAMEKO&かめたろう

駅前に「信仰とウミガメのまち」とあり、日和佐はとにかく亀・亀・亀！ 美波町のゆるキャラ、KAMEKOとかめたろうが徘徊し、マンホールにまで亀が描かれています。厄除橋では欄干、街路灯と至る所に亀の姿があり、この橋の上だけで54頭もの亀が数えられています。

実はハイテクの街！



日和佐港周辺には古い街並みが多く残されおり、古民家を改装した飲食店や宿屋が人気を集めています。明治時代に作られた銭湯「初音湯（はつねゆ）」をリノベーションし、なんと現在は東京から移転したIT企業の社屋と成っています。入口を入ると番台や棚などが残され、しかも動いている方々の足元は湯船が残されていました。企業誘致を積極的に推進している徳島県ならではの光景でした。

お遍路の街



四国霊場二十三番札所となる薬王寺は、神亀3年(726年)に建立されました。高野山真言宗の別格本山とされる由緒ある寺院で、特に厄除けの寺として有名です。

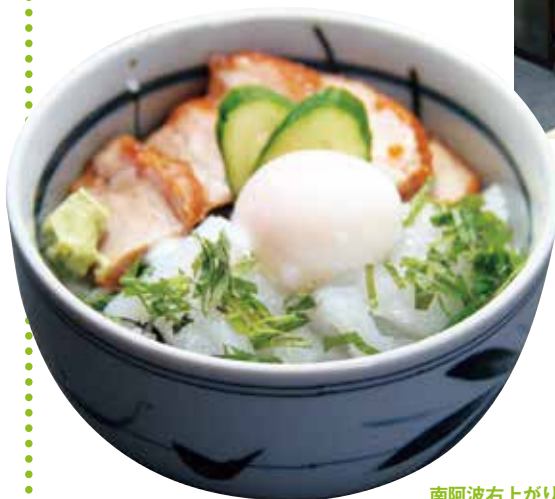


えびす洞

海が荒れているときは洞窟をくぐり抜けて波しぶきが上がり、壮観な姿を見せる「えびす洞」。高さ31メートル、幅32メートルと、海水の浸食によって掘られた海蝕洞としては徳島県一の大きさです。頂上には恵比須洞神社が祀られています。



徳島県南で水揚げされた魚介類、県南産の米、肉類などの農産物を使う南阿波井。中でも特産の阿波尾鶏とアオリイカを合わせたシンボリックな井が「南阿波右上がり井」です。地域やお店によって多彩な味が楽しめます。



南阿波右上がり井



はも天井



あおりいか井

南阿波井



日和佐八幡神社秋祭り



「ちようさ」と呼ばれる太鼓屋台を担ぎ、大浜海岸へと練る県内随一の秋祭り。毎年10月に開催され、「ちようさ」を担いで海へと飛び込む勇壮な姿を観に、多くの観光客が訪れます。



日和佐城

日和佐湾に突き出る半島にそびえる日和佐城は、1500年代の初め頃、土地の豪族、日和佐肥前守が、土佐の長宗我部の侵入を防ぐために築城したと伝えられています。元々の城の構えは山城だったと考えられていますが詳細は不明。現在の天守閣は昭和53年に建てられたものです。



海上保安庁音楽隊
今年度初コンサート
5月14日



千歳航空基地
オホーツク海で流氷の渦模様
3月23日



本庁海洋情報部
海洋情報部が中央合同庁舎
4号館に移転
4月1日



網走海上保安室
迷子の赤ちゃんアザラシを保護
4月17日



犬吠埼灯台に
こいのぼり掲揚
5月3、5日

第三管区
銚子初！女性船長誕生
4月1日



仙台航空基地
女性初！ヘリパイロット教官資格取得
3月10日



呉海上保安部
「海上保安官になりたいです」
未来の海上保安官が訪問
4月8日



田辺海上保安部
マラソン大会参加で「118番周知」
2月21日



第八管区

隠岐海上保安署
風弱く、「118番」走ってPR

4月10日



第七管区

福岡海上保安部
博多どんたく
巡視船「やしま」体験航海

5月4日



第十管区

宮崎海上保安部
小学生を対象に「お仕事体験」出港

3月20、21日



第九管区

金沢海上保安部
テロリスト制圧訓練実施

5月10日



第十一管区

石垣航空基地
機動救難士 登山で体力練成

5月6日



大専校

海上保安大専校
練習船「こじま」
世界一周の遠洋航海へ出港

4月28日



専校

海上保安専校
42・7 km 踏破！ 春季行軍訓練実施

5月18日



大専校

海上保安大専校
学生ボランティア 熊本でがれき撤去

4月29、30日

INFORMATION

大切な命！ 自分で守る

海上保安庁からのお願い

マリンレジャーを安全に楽しむために、事前に海の気象情報・安全情報を収集し、もしもに備えて、「自己救命策確保3つの基本」を守りましょう！

自己救命策確保3つの基本

1 海に落ちても沈まない
ライフジャケットの常時着用



2 水中でも大丈夫
(防水バックの使用)
携帯電話の携行



3 海のもしもは……
118番の活用



海上保安大学校・海上保安学校採用試験(教育訓練管理官)

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。試験は、高等学校等卒業者を対象に行われます。試験の日程については、下記のとおりです。詳しくは、最寄りの海上保安本部または海上保安庁総務部教育訓練管理官付学校教育係 (Tel: 03-3580-0936) までお気軽にお問い合わせください。



平成28年度 採用試験日程



海上保安大学校 学生採用試験

受付期間	インターネット	平成28年8月25日(木)～9月5日(月)
	郵送・持参	平成28年8月25日(木)～8月29日(月)
第1次試験	平成28年10月29日(土)、10月30日(日)	
ホームページ	http://www.jcga.ac.jp/	



海上保安学校 学生採用試験

受付期間	インターネット	平成28年7月19日(火)～7月28日(木)
	郵送・持参	平成28年7月19日(火)～7月21日(木)
第1次試験	平成28年9月25日(日)	
ホームページ	http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/	

学生採用試験
ホームページ

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/ope/siken.html>

